

甲府一高新聞

5月号

発行所
甲府一高新聞部

前期生徒総会が行われる 一高祭テーマは「一興」に決定

前期生徒総会が5月1日、本校体育館にて行われた。総会では平成25年度生徒会決算・予算報告、第66回一高祭について、議論がされた。また「いきいきスクール運動」の報告、部活動における完全下校の徹底についての提案が行われた。

第66回一高祭は、6月21日は「コニエ文化ホール」で、22日は学校で行われることになったが、21日のタイムスケジュールについては開場が午前9時から10時に変更となり、再検討となった。一高祭テーマについては3テーマの中から、3年6組案の『一興』に決定した。

今年からの変更点として、百周年記念館で行われていたバザーが、あまり目立たないことから職員玄関前に移すことになった。出店の利益は昨年同様、慈善団体に寄付していたが、使途は各クラスに一任。また、容器はデポジットからエコ容器に変更となった。エコ容器の材質はとうもろこ

延長してほしい」という意見に対し、本部は「夕方交通量が多くなる危険性」と述べた。対して、3年3組から「休日

も平日も危険性は同じではないか。提案する前から先生側を気にしているのではないのか」との意見が出されたが、本部は「事故に遭った場合、学校で責任がとれない。両方は無理なので、どちらかの案に決めたい」とした。多数決により休日案に決定した。議事終了後、連絡・報告で「いきいきスクール運動で

応援練習が終わる 一高生としての自覚を認識



【応援団の指導をうける1年生たち】

1年生を対象にした応援練習が4月16、17日の両日、応援団、生徒自治会、応援委員による指導の下で行われた。目的は短期間で校歌をはじめ応援歌、その応援の形を覚え、とりわけ、一高生としての自覚を持てることだ。

1年生は、事前の歌詞カードと歌の入ったCDが配布され、すべての歌を覚えることになっている。しかし、応援練習中、歌詞を覚えていない1年生は上級生から厳しい指導を受けた。

「一高の応援練習のように、入学直後のオリエンテーションで何曲も歌を覚えたこと。日常での部活動やクラブの仲間も思い出深い」

「一高生は可能性を秘めている」

「一高生は可能性を秘めている」

「一高生は可能性を秘めている」

吹奏楽部 定期演奏会で 多くの観客を魅了する



【第3部で森山威男さんと共演する部員】

第54回応援団吹奏楽部定期演奏会が、5月3日、コニエ文化ホール大ホールにて行われた。演奏会は3部構成で、懐かしの名曲「リンセス・プリンセス」の演奏が、出版前の楽曲の演奏

「Diamonds」や、誰もが知る人気曲「名探偵コナンのテーマ」など、様々なジャンルの曲が演奏された。また、今回は世界的に有名なドラマ「本城山」の森山威男さんとの共演もあった。その卓越した演奏技術でさらに会場をわかせた。

また、演奏以外にも様々なパフォーマンスを披露した。例えば、出版前の楽曲の演奏

「一高生は可能性を秘めている」

「一高生は可能性を秘めている」

「一高生は可能性を秘めている」

課題は落下物対策を万全に 地震を想定した防災訓練が行われる

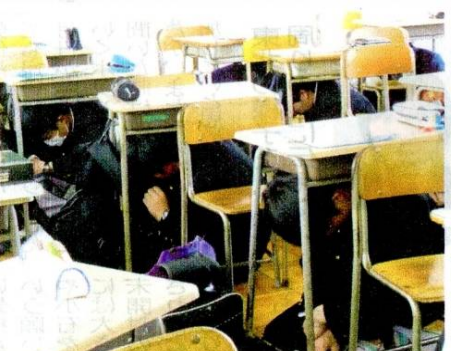
防災避難訓練が4月26日に行われた。今回は、近年起こるのではないかとされている南海トラフ巨大地震等を想定した訓練となっている。

訓練は、非常ベルおよび訓練のアナウンス放送の後、第1次行動で机の下にもぐり、第2次行動でクローゼットに避難する。避難にかかった時間

「一高生は可能性を秘めている」

「一高生は可能性を秘めている」

「一高生は可能性を秘めている」



【第1次行動で机にもぐる生徒】

も全体的に早く避難することができた。訓練後の講評で奥山一秀教頭先生は「速やかに避難できたが、地震の際の落下物から頭を守るために、机の下にもぐるときは、自分の身は自分で守ることを意識し、いざという時には冷静な素早い行動ができるように心がけてほしい」と話した。

擬宝珠

「大きく、強く、逞しく、やさしい人になってほしい」
「今高校生になれたらしてみたいこと」
「電車通学をしてみたい」
「本物の真面目さを身に付けたい」
「数学を得意にする」
「一高生は可能性を秘めている」

しばいち
(24)

被災地は今



【第18共徳丸の写真を撮る自然科学部員】

共徳丸が打ち上げられた場所、被災地は、震災当日は大火災のため、すべてが焼き尽くされた。

が、現在は仮設の市場やコンビニなどが営業を始めていて、やと活気がもつてきた。しかし漁業が盛んであった気仙沼の水揚げ量は震災前の約半分にまで落ち込んでいる。けなく、処理済みがれきは全体のわずか35%で、復興への道のりの遠さを痛感せずにはいられない。

2011年3月11日に発生した東日本大震災。大地震や巨大津波によって1万人を超える多くの方々がその犠牲となった。そのような甚大な被害を受けた被災地が、今どのような現状にあるのだろうか。

甲府一高新聞部が被災地を訪問するのは今回で3回目。震災から2年という歳月で、被災地はどのように変わったのか。現状を報告したい。

大震災が残した爪痕は未だ深く残る

3月30日から31日の2日間かけて、新聞部と自然科学部の8人が東日本大震災の被災地である宮城県気仙沼市と南三陸町を訪問。30日は気仙沼市内でボランティア活動を行い、その後被災地の現場や陸地に打ち上げられた第18共徳丸を巡った。31日は南三陸町を訪れ、防災対策庁舎など、市内を巡った。

活気もどり始めた
気仙沼市

【仮設で営業しているコンビニ】

気仙沼市は海岸沿いを中心として現在議論が行われている。市は津波のすさまじさを物語り震災遺構として残していきたい意向を示している。しかし市民からの「あの船を見る度に震災の記憶が呼び起こされ、非常に辛い。早く撤去してほしい」という反発の声があることから、船の所有者である水産会社は解体を決めた。訪れた時は、漁船を近くで見ることができたが、現在は腐食が進み倒壊の危険があること、近くで見ることができなくなっている。

また、津波で約800m内陸に打ち上げられた大型漁船「第18共徳丸」の扱いに関

前に進もうという強い思いを感じた
南三陸町

3月末というのに小春がちらつく肌寒い日に、南三陸町を訪れた。中心部であった市街地は震災の津波で跡形もなく流れ、志津川病院など被災

害のあった建物は、昨年3月に訪れた時には手つかずであったが、ほとんどが撤去されて



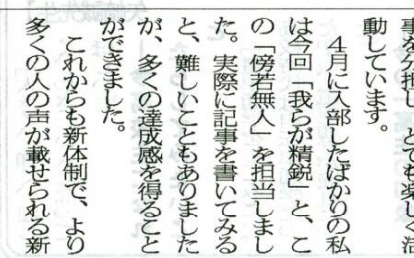
【多くの方が訪れている防災対策庁舎】



【がれきが撤去され、広がる空き地】



【復興への思いを切り抜いた造形物】



【連絡先】
甲府第一高校 新聞部 井上宛
〒400-0007 甲府市美咲2-13-44
Tel:055-253-3525 Fax:055-253-3527
E-mail shinbunbu@first.kai.ed.jp

被災地を訪れて

震災の恐ろしさ、破壊力の強さを知る



猪股 楓(3年)

一日のボランティアで私たちがどこまで力になったのか分りませんが、被災地を訪れて活動できたのはとても良い経験になりました。月日が経つにつれ減少していくボランティアの人数を聞いた時は悲しくなりましたが、また機会があれば参加したいと思っています。

東北の様子を
周りの人に伝えたい



河阪幸花(3年)

私はテレビでは伝わり切れない地元の方の声を聞くことで、私自身が今何をすべきかを考えるきっかけにしようと思いい、このボランティア活動に参加しました。

ボランティアの内容は南三陸町の一景福神社の清掃

震災の問題は
日本全体の問題



内田壮駿(3年)

私は今回、初めて被災地を訪れましたが、テレビで見るとよりずっとひどい状況でした。

まず、気仙沼市はかつて高い建物が多く、かなりにぎわっていた町であったが、行ってみると、もはや跡形もなく廃墟と化していました。

第二に、気仙沼の漁港は日本でも有名な漁港ですが、港はまだ復旧が行われておらず、今もその傷跡がむき

傍若無人

前に進もうという強い意志を感じた。(久保寺)

甲府一高新聞部は新たに部員が加わり、4月から6人になりました。昨年は3年生の先輩が1人で皆さんの記事を書き、新聞を発行していたという状況でしたが、6人となった今はそれぞれの仕事を分担し、とても楽しく活動しています。



〈甲一新聞部員〉
久保寺 輝 志村佳太
嶋田 遥
近藤久美子
植松澄香
志村敬人

愛読希望の方は、住所・氏名・電話番号を記載の上、下記アドレスまで御連絡ください。